



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 37 No. 3
June 2012**

毒理学ニュース

日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

第15回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	31
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	33
認定試験受験資格のための評点表	35
第15回日本毒性学会基礎教育講習会案内	37
第15回日本毒性学会基礎教育講習会日程	38
第13回日本毒性学会生涯教育講習会案内	39
第39回日本トキシコロジー学会学術年会のご案内(第6報)	40
第6回アジア毒性学会学術集会(ASIATOX-VI)のご案内(第4報)	50

その他のお知らせ

第6回応用トキシコロジーリカレント講座開催案内(第1報)	57
第19回日本免疫毒性学会学術大会(JSIT2012)	
第61回日本産業衛生学会アレルギー・免疫毒性研究会 合同開催	57

求人広告

住友化学	59
------	----

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

入会案内/変更手続き

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

第 15 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

認定試験小委員会委員長

広瀬 明彦

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は J. Toxicol. Sci. またはホームページに掲載の「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規定に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の 10 日前までに受験票をご本人宛送付いたします。

試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日 時

2012 年 9 月 30 日 (日) 9:15 ~ 16:30

2. 会 場

昭和大学 4 号館 600 号

(東京都品川区旗の台 1-5-8)

* 東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩 5 分

3. 出願期間

2012 年 7 月 2 日 (月) ~ 8 月 14 日 (火) (必着)

4. 出願書類

1) 願書と受験者確認票

2) 写真 2 枚 (縦 3.5cm × 横 3cm)

(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)

3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

・ 会員歴：本年度は原則 2009 年以前に入会された方

(途中退会歴の取り扱いは問い合わせ先まで)

・ 研究歴

詳細は「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの (書留、宅配等) でお送り下さい。

5. 受験料

30,000 円 (下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. トキシコロジー参考図書に関する留意点

日本毒性学会教育委員会編集の「トキシコロジー」(朝倉書店) は 2009 年に改訂されておりますので、ご留意下さい。第 1 版と第 2 版については正誤表が学会ホームページに掲載されておりますので、確認をお願いします。

7. 出願書類送付先・問い合わせ先

日本毒性学会 教育委員会

認定試験小委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35

信濃町煉瓦館 (財)国際医学情報センター内

TEL: 03-5361-7075 / FAX: 03-5361-7091

e-mail: educ-group@umin.ac.jp

第 15 回日本毒性学会 認定トキシコロジスト認定試験受験者確認票

写真添付欄

受験番号

氏 名

(氏名をご記入ください)

日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書

年 月 日提出

ふりがな

氏 名： _____

会員番号： _____

生年月日：西暦 年 月 日

所属機関： _____

職 名： _____

日本毒性学会会員歴：西暦 _____ 年入会（継続 _____ 年）

学 歴：

西暦 _____ 年 _____ 高等学校 _____ 科卒業

西暦 _____ 年 _____ 大学 _____ 学部 _____ 学科卒業

西暦 _____ 年 _____ 大学院 _____ 研究科 _____ 課程修了

職 歴／毒性研究・研究歴（種類，期間）：

受験票送付先：〒

住 所

電話：

FAX：

E-mail：

（お持ちの方は必ずご記入下さい）

写真貼付欄

切
り
取
り
線

認定試験受験資格のための評点表

「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」の付表（脚注に注意）を参考にして自己採点の上、下表（評点表）の該当箇所に評点を記入して下さい。

なお、下表中の論文についてはそのコピーを、学会等参加については参加証のコピーを、学会等発表については学会開催年を付記した講演要旨のコピーを、また、講習会については参加証のコピーを、それぞれ証明資料として添付して下さい。

（評点表にも忘れずに氏名と所属機関をご記入下さい）

氏名：

所属機関：

種別	評点項目	評点
論文	毒性学関連論文 ¹⁾	
学会活動	JSOT 学会	発表
		参加
	JSOT 認定学会 ²⁾	発表
		参加
	JSOT 認定講習会 ³⁾	
JSOT 主催講習会	基礎教育講習会	1998 年以降
		1997 年以前
	生涯教育講習会	
合計		

1) レフリー制度が整っている学術誌に限る。

2) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会

3) 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等

切り取り線

第 15 回日本毒性学会基礎教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

基礎講習会小委員会委員長

務台 衛

基礎教育講習会は、トキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によって毒性学全般にわたる理解を深めたいと、秋季に開催されます第 15 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験の受験にお役立て下さい。尚、本講習会を受講されますと認定試験受験資格のための評点 40 点が付与されます。また、認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象にもなります。

受講を希望される方は、右記の受講申込方法でお申込み下さい。受講料入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送りします(7月中旬頃)。

1. 日 時

2012 年 8 月 6 日(月)～ 8 日(水)

* 詳細につきましては次頁「日程」をご確認下さい。

2. 会 場

東京大学農学部 1 号館
(東京都文京区弥生 1-1-1)

3. 募集人数

150 名(先着順)

4. テキスト

「[新版] トキシコロジー」(朝倉書店, 2009 年刊)の内容を中心に講義を行います。参加者はあらかじめ書店等で購入することをお勧めします。正誤表は学会ホームページに掲載されています。

教育委員会事務局でもテキストの申込みを受け付けております。①氏名②会員番号③送付先住所④電話番号⑤冊数を明記の上、メールまたは FAX でお申込み下さい。

5. 受講申込および受講料

1) 申込期間

2012 年 6 月 4 日(月)～7 月 6 日(金)

2) 申込方法

J. Toxicol. Sci. 4 月号 (Vol.37, No.2) に添付の郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、受講料をお振込み下さい。

非会員の方は郵便局に備え付けの振替用紙に氏名、所属、受講案内送付先郵便番号、住所、連絡先電話番号をご記入の上、下記振替口座までお振込み下さい。

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

3) 受講料

一般会員：25,000 円 学生会員：10,000 円

非 会 員：35,000 円

認定トキシコロジスト：20,000 円(2～3 日受講)
10,000 円(1 日受講)

* 一旦振込いただきました受講料は、理由の如何に関わらずご返金致しませんのでご了承下さい。

* 領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。

4) その他

昼食は各自ご用意下さい。講義室内での飲食は可能です。

6. 問合せ先

日本毒性学会 教育委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館
(財)国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 / FAX：03-5361-7091

e-mail：educ-group@umin.ac.jp

第15回日本毒性学会基礎教育講習会日程

月 日	#	時 間	学 科 目	講 師
8月6日 (月)		9:00 - 9:10	受 付	教育委員会事務局
		9:10 - 9:15	オリエンテーション	尾崎 基礎講習会小委員会 副委員長
			委員長挨拶	務台 基礎講習会小委員会 委員長
	1-1 (1:00)	9:15 - 10:15	毒性学の基本概念	和久井 信 講師 (麻布大学 獣医学部)
	1-2 (1:30)	10:25 - 11:55	規制毒性試験法, 実験動物及び統計手法	久米 英介 講師 (田辺三菱製薬(株) 安全性研究所)
	1-3 (1:00)	12:05 - 13:05	毒性発現機序	吉成 浩一 講師 (東北大学大学院 薬学研究科)
	1-4 (1:30)	13:50 - 15:20	動態・代謝, トキシコキネティクス	橋爪 孝典 講師 (大阪大谷大学 薬学部薬物動態学講座)
	1-5 (1:00)	15:30 - 16:30	臓器毒性・毒性試験 (1) (神経行動毒性)	吉田 敏則 講師 (財)残留農薬研究所)
1-6 (1:00)	16:40 - 17:40	臓器毒性・毒性試験 (2) (循環器毒性)	葛西智恵子 講師 (アステラス製薬(株) 安全性研究所)	
8月7日 (火)	2-1 (1:30)	8:45 - 10:15	臓器毒性・毒性試験 (3) (肝毒性, 腎毒性)	谷 吉朗 講師 (第一三共(株) 安全性研究所)
	2-2 (1:15)	10:25 - 11:40	臓器毒性・毒性試験 (4) (消化器毒性, 呼吸器毒性, 皮膚・粘膜毒性)	佐藤 洋 講師 (富士フィルム(株) CSR 推進部)
	2-3 (1:00)	11:55 - 12:55	臓器毒性・毒性試験 (5) (内分泌毒性, 運動器毒性, 感覚器毒性)	猪又 晃 講師 (エーザイ(株) 筑波安全性研究部)
	2-4 (1:15)	13:40 - 14:55	臓器毒性・毒性試験 (6) (血液・造血毒性, 免疫毒性)	國西 芳治 講師 (杏林製薬(株) 開発研究所)
	2-5 (1:00)	15:05 - 16:05	臓器毒性・毒性試験 (7) (遺伝毒性)	濱田 修一 講師 (三菱化学メディエンス(株))
	2-6 (1:00)	16:15 - 17:15	臓器毒性・毒性試験 (8) (発がん性)	小川久美子 講師 (国立医薬品食品衛生研究所)
8月8日 (水)	3-1 (1:00)	8:45 - 9:45	臓器毒性・毒性試験 (9) (生殖発生毒性)	大島洋次郎 講師 (株)新日本科学 安全性研究所)
	3-2 (1:30)	9:55 - 11:25	化学物質の有害作用 (1) (医薬品・化粧品, 食品・食品添加物)	宮本 索 講師 (武田薬品工業(株) 薬剤安全性研究所)
	3-3 (1:00)	11:35 - 12:35	化学物質の有害作用 (2) (農薬, 工業用化学物質, 天然毒性物質, 金属, 臨床中毒)	古川 賢 講師 (日産化学工業(株) 生物科学研究所)
	3-4 (1:00)	13:20 - 14:20	毒性オミクス・バイオマーカー	上原 健城 講師 (塩野義製薬(株) 安全性研究部門)
	3-5 (2:00)	14:30 - 16:30	リスクアセスメント・マネジメント 環境毒性(環境汚染物質), 放射性物質, 紫外線, ナノマテリアル	小野 敦 講師 (国立医薬品食品衛生研究所)
			16:30	受講証明書配布

第13回日本毒性学会生涯教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

生涯教育小委員会委員長

鈴木 雅実

本講習会は一日で3コース学習するフレームに改変し「①トピックス：新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する。②臓器毒性：各種臓器の毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する。③SD育成講座：試験責任者として試験結果の解釈・理解・評価を深める為の知識を学習する。」ニーズに応じて受講者が選択できる新講習体系に致しました。2012年は①「トピックス：新しいアプローチ」、②「臓器毒性：神経系・循環器系」、③「SD育成講座：非病理学者のための病理学講義」について講義していただきます。非会員の方も参加できます。

なお、本講習会は、JSOT認定講習会となっており、認定トキシコロジスト認定試験受験資格の評点獲得、および認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象となります。詳細はJ. Toxicol. Sci. またはホームページの『認定トキシコロジストの認定制度規定』をご覧ください。

1. 日時

2012年7月16日(月)

①トピックス：新しいアプローチ

10:00～13:00

毒性試験における最新の手法・技術の導入

：新しい科学進展に伴う科学的技術

－米国SOT学会でのContinuing Education Courseの議題をもとに－

五十嵐勝秀 先生(国立医薬品食品衛生研究所)

鈴木 睦 先生(協和発酵キリン株式会社)

休憩(13:00～14:00)

②臓器毒性：神経系・循環器系 14:00～17:00

最新の科学を含めて毒性発現メカニズムをin vitro 及びin vivo から解説し、試験法及び結果の解釈について学習する

神経系：ガイドラインに基づいた脳神経系の安全性評価を中心に

高橋 宏明 先生(日本たばこ産業株式会社)

循環器系：薬物誘発性循環器毒性

－機能的および器質的变化について－

千葉 克芳 先生(第一三共株式会社)

③SD育成講座

17:00～18:00

：非病理学者のための病理学講義

IUTOXでのContinuing Education Courseの議題をもとに

鈴木 雅実 先生(中外製薬株式会社)

2. 会場

ホテルメトロポリタン仙台 3F「曙」

(〒980-8477 宮城県仙台市青葉区中央一丁目1-1)

※別会場にて認定トキシコロジスト懇親会を開催致します。認定トキシコロジストの先生方のご参加をお待ちしております。

日時：18:30～20:30(予定)

会場：ホテルJALシティ仙台 レストラン ジョリー

(〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院1-2-12)

会費：当日4,000円

定員：70名

3. 参加費(当日申込) ※1日フルコースとして設定

会員 当日 7,000円

非会員 当日 10,000円

認定トキシコロジスト 当日 5,000円

4. 問い合わせ先

日本毒性学会教育委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館

(財)国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 / FAX：03-5361-7091

e-mail：educ-group@umin.ac.jp

第 39 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報)

※第 6 回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) と同時期開催いたします。

1. 日 時

2012 年 7 月 17 日 (火) ~ 19 日 (木)

2. 会 場

仙台国際センター
〒 980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
TEL: 022-265-2211 (代表)
URL: <http://www.sira.or.jp/icenter/>

3. 年会長

永沼 章 (東北大学大学院薬学研究科)
TEL: 022-795-6870

4. 企画委員 (敬称略)

大野 泰雄 (国立医薬品食品衛生研究所)
鍛冶 利幸 (東京理科大学)
菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
熊谷 嘉人 (筑波大学)
佐藤 雅彦 (愛知学院大学)
下村 和裕 (第一三共株式会社)
菅井象一郎 (日本たばこ産業株式会社)
杉本 哲朗 (中外製薬株式会社)
津田 修治 (岩手大学)
遠山 千春 (東京大学)
中村 和市 (塩野義製薬株式会社)
西田 信之 (武田薬品工業株式会社)
野村 護 (株式会社イナリサーチ)
姫野誠一郎 (徳島文理大学)
広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)
堀井 郁夫 (ファイザー株式会社)
眞鍋 淳 (第一三共株式会社)
山添 康 (東北大学)
横井 毅 (金沢大学)
吉田 武美 (薬剤師認定制度認証機構)

5. 特別企画 (敬称略)

市民公開セミナー

テーマ: 「食品中化学物質と健康」
日 時: 2012 年 7 月 16 日 (月・祝)
午前 10:00 ~ 11:30
場 所: 仙台市シルバーセンター
(仙台駅より徒歩 5 分)

司 会 井村 伸正

(麻薬・覚せい剤乱用防止センター)

1. 「食品中に含まれる重金属の安全性」
永沼 章 (東北大学)
2. 「食品中や身の回りの化学物質の安全性・危険性」
吉田 武美 (薬剤師認定制度認証機構)

年会長招待講演

7 月 17 日 (火) 9:00 ~ 9:55 第 1 会場

II 環境毒性学から疾患研究への展開…水腎症発症の分子毒性メカニズムの解明
遠山 千春 (東京大学)
座長: 永沼 章 (東北大学)

特別講演 1

7 月 18 日 (水) 9:00 ~ 9:55 第 1 会場

SL1 Toxicity testing in the 21st century — a vision and a strategy
Daniel ACOSTA, Jr.
(University of Cincinnati, USA)
Chair: Jun KANNO
(National Institute of Health Sciences, Japan)

特別講演 2

7 月 18 日 (水) 10:00 ~ 10:55 第 1 会場

SL2 Cellular adaptive response to environmental toxicants and other noxious stimuli
Young-Joon SURH
(Seoul National University, Korea)
Chair: Yoshito KUMAGAI
(University of Tsukuba, Japan)

特別講演 3

7月18日(水) 11:00～11:55 第1会場

- SL3 Molecular basis of Keap1-Nrf2 system function
Masayuki YAMAMOTO
(Tohoku University, Japan)
Chair: Jin-Ho CHUNG
(Seoul National University, Korea)

特別講演 4

7月18日(水) 15:30～16:25 第1会場

- SL4 Fifty years after the discovery of cytochrome P450: What do we really know about the positive and negative roles in toxicology & health issues?
Frederick Peter GUENGERICH
(Vanderbilt University, USA)
Chair: Malyn CHULASIRI
(Mahidol University, Thailand)

教育講演 1

7月17日(火) 10:00～10:55 第1会場

- EL1 毒作用発現バイオマーカーとしてのマイクロRNA
横井 毅(金沢大学)
座長:堀井 郁夫(ファイザー株)

教育講演 2

7月17日(火) 11:00～11:55 第1会場

- EL2 市販後における医薬品の安全性評価の問題点とその原因-非臨床安全性評価の意義-
吉田バスカル
(グラクソ・スミスクライン株)
座長:松本 一彦
(公財)食品農医薬品安全性評価センター)

教育講演 3

7月19日(木) 9:00～9:55 第1会場

- EL3 Current understanding of perfluoroalkyl acid toxicology
Christopher Si-Lung LAU
(U.S. Environmental Protection Agency, USA)
Chair: Shuji TSUDA
(Iwate Institute of Environmental Health Sciences, Japan)

教育講演 4

7月19日(木) 10:00～10:55 第1会場

- EL4 A systemic review of the prothrombotic risk of xenobiotics: from cell to system
Jin-Ho CHUNG
(Seoul National University, Korea)
Chair: Chen-Chang YANG
(National Yang-Ming University/Taipei Veterans General Hospital, Taiwan)

教育講演 5

7月19日(木) 11:00～11:55 第1会場

- EL5 The successful approach of The Critical Path Institute's Predictive Safety Testing Consortium public-private partnership in qualifying biomarkers for drug induced kidney injury
Eslie DENNIS (Critical Path Institute, USA)
Chair: Sunao MANABE
(Daiichi Sankyo Co., Ltd., Japan)

シンポジウム 1

7月17日(火) 9:00～12:00 第2会場

- S1 エピジェネティクスから捉えた毒作用発現
座長:五十嵐勝秀
(国立医薬品食品衛生研究所)
中島 欽一
(奈良先端科学技術大学院大学)
- S1-1 イントロダクション:『エピジェネティクスから捉えた毒作用発現』-基礎研究の著しい進展と作用メカニズム研究への期待-
五十嵐勝秀
(国立医薬品食品衛生研究所)

- S1-2 発生期神経幹細胞の分化能獲得における酸素濃度の影響
武藤 哲司, 佐野坂 司, 伊藤 慧,
○中島 欽一
(奈良先端科学技術大学院大学)
- S1-3 ストレス応答性遺伝子発現における S- アデノシルメチオニン合成酵素の核内機能
○五十嵐和彦, 解良 洋平, 加藤 恭丈
(東北大学)
- S1-4 神経細胞における細胞核構造解析
伊藤 賢治, 魚崎 祐一, 野口 東美,
○滝沢 琢己
(群馬大学)
- S1-5 破骨細胞分化におけるエピジェネティック制御
○今井 祐記, 延 珉榮
(東京大学)
- S1-6 環境化学物質ビスフェノール A と脳形成・発達
○伏木 信次, 矢追 毅, 伊東 恭子
(京都府立医科大学)

シンポジウム 2

7月17日(火) 9:00 ~ 12:00 第3会場

- S2 毒性オミクス
座長: 菅野 純
(国立医薬品食品衛生研究所)
石川 智久 (理化学研究所)
- S2-1 Percellome Project: 組織, 臓器, 種を跨いで
菅野 純
(国立医薬品食品衛生研究所)
- S2-2 クラスタリングとプロモータ解析によりネットワーク検出のアプローチ
Natalia POLOULIAKH, Hiroaki KITANO
(株ソニーコンピュータサイエンス研究所)
- S2-3 プロモートームおよび転写制御ネットワークによる薬剤作用の解析
鈴木 治和
(理化学研究所)
- S2-4 薬物副作用の回避にむけて: 国際トランスポーター・コンソーシアム報告, 新規 QSAR 解析と迅速 SNP 検出法の開発
石川 智久
(理化学研究所)

シンポジウム 3

7月17日(火) 9:00 ~ 12:00 第4会場

- S3 生態毒性試験生物の基礎研究
座長: 田中 利男 (三重大学)
石塚真由美 (北海道大学)
- S3-1 ミジンコの毒性, 基礎研究について
花里 孝幸
(信州大学)
- S3-2 ミミズの生物学と分子生物学
蒲生 忍
(杏林大学)
- S3-3 発達初期ゼブラフィッシュにおける循環障害の発現機構
寺岡 宏樹
(酪農学園大学)
- S3-4 生態毒性試験と薬理ゲノミクスにおけるゼブラフィッシュの役割
○田中 利男, 西村 有平, 島田 康人
(三重大学)
- S3-5 鳥類の環境毒性学: AHR シグナル伝達系の特徴とダイオキシン類のリスク評価
○岩田 久人¹⁾, Jin-Seon LEE¹⁾,
Thuruthippallil Leena MOL¹⁾,
久保田 彰²⁾, Eun-Young KIM³⁾
(¹⁾ 愛媛大学, ²⁾ Woods Hole Oceanographic Institution, USA, ³⁾ Kyung Hee University, Korea)

シンポジウム 4

7月17日(火) 13:30 ~ 16:30 第1会場

- S4 再生医療とその評価
座長: 苗代 一郎 (武田薬品工業株)
高橋 祐次
(国立医薬品食品衛生研究所)
- S4-1 モノづくり技術を利用した再生医療 - 再生治療と再生研究 -
田畑 泰彦
(京都大学)
- S4-2 再生医療/細胞・組織加工製品の安全性評価
佐藤 陽治
(国立医薬品食品衛生研究所)
- S4-3 細胞医薬品の安全性評価と薬事対応
川上 浩司
(京都大学)

シンポジウム 5

7月17日(火) 13:30～16:30 第2会場

- S5 子どもの毒性学
座長：菅野 純
(国立医薬品食品衛生研究所)
関根 孝司
(東邦大学医療センター大橋病院)
- S5-1 子どもの毒性学 Overview
菅野 純
(国立医薬品食品衛生研究所)
- S5-2 こどもの毒性学(発達障害に焦点をあてて)
関根 孝司
(東邦大学医療センター大橋病院)
- S5-3 ヒトでの発達障害の病態：自閉症スペクトラム障害、注意欠陥/多動性障害を中心に
橋本 俊顕
(徳島赤十字ひのみね総合療育センター)
- S5-4 ヒト乳児における発達脳科学研究の現状と課題
多賀 巖太郎
(東京大学)
- S5-5 発生-発達期の神経シグナルかく乱による遅発中枢影響解析-幼若期マウスへのイボテン酸投与による成熟期の脳高次機能障害について-
○種村健太郎¹⁾, 古川 佑介²⁾, 大塚 まき²⁾, 五十嵐勝秀²⁾, 相崎 健一²⁾, 北嶋 聡²⁾, 佐藤 英明¹⁾, 菅野 純²⁾
(¹⁾ 東北大学, (²⁾ 国立医薬品食品衛生研究所)
- S5-6 金属の中枢神経毒性
清水 教一
(東邦大学医療センター大橋病院)

シンポジウム 6

7月17日(火) 13:30～16:30 第3会場

- S6 神経行動毒性試験の標準化と新たな指標開発の展開
座長：掛山 正心(東京大学)
宮川 宗之
(独)労働安全衛生総合研究所)
- S6-1 OECD テストガイドラインの現状と今後の課題
宮川 宗之
(独)労働安全衛生総合研究所)

- S6-2 マウス表現型解析基盤の標準化と日本マウスクリニック
若菜 茂晴
(理化学研究所バイオリソースセンター)
- S6-3 認知・行動毒性学：マウスにおける認知機能と社会行動の評価
○掛山 正心, 遠山 千春
(東京大学)
- S6-4 脳行動指標によるヒトの心の定量的測定：毒性研究適用の試み
篠原 一之
(長崎大学)

シンポジウム 7

7月17日(火) 13:30～15:00 第4会場

- S7 日本における農薬等の急性曝露評価の必要性
座長：山田友紀子(農林水産省)
吉田 緑(国立医薬品食品衛生研究所)
- S7-1 急性参照用量(Acute reference dose)と急性曝露評価の必要性
小野 敦
(国立医薬品食品研究所)
- S7-2 急性参照用量設定の考え方と具体例-生殖発生毒性の観点から
代田眞理子
(麻布大学)
- S7-3 急性参照用量設定の考え方と具体例-血液学的観点から-
松本 清司
(信州大学)
- S7-4 国際機関における急性参照用量設定および短期経口曝露評価の経緯
山田友紀子
(農林水産省)

シンポジウム 8

7月17日(火) 15:00～17:00 第4会場

- S8 慢性毒性試験結果からの発がん性予測
座長：小野寺博志
(独)医薬品医療機器総合機構)
中江 大(東京都健康安全研究センター)

- S8-1 医薬品のラットにおけるがん原性陰性の予測性に関するデータ調査
○久田 茂, 澤田 繁樹, 工藤 哲,
和藤 英司, 熊澤 俊彦, 森山 賢二,
三島 雅之, 笠原 義典, 鬼頭 耀子,
井上 健司, 青木 豊彦, 中村 和市
(日本製薬工業協会医薬品評価委員会基礎研究部会)
- S8-2 ICHS1 の最新動向
○西川 秋佳¹⁾, 野中 瑞穂²⁾, 小川久美子¹⁾
(¹⁾ 国立医薬品食品衛生研究所, ²⁾ (独) 医薬品医療機器総合機構)
- S8-3 学際立場から: 最近のがん原性試験の動向
三森 国敏
(東京農工大学)

シンポジウム 9

7月18日(水) 9:00~12:00 第2会場

- S9 薬物性肝障害-最新知見を基に
座長: 横井 毅 (金沢大学)
矢本 敬 (第一三共株)
- S9-1 Introduction: 薬物性肝障害
寺西 宗広
(第一三共株)
- S9-2 特異体質性薬物性肝障害の前臨床基礎研究
横井 毅
(金沢大学)
- S9-3 末梢血中 RNA を指標とした薬剤性肝障害バイオマーカー
大久保慎吾
(武田薬品工業株)
- S9-4 毒性評価系への応用に向けたヒト ES/iPS 細胞から肝臓細胞への分化誘導の現状
水口 裕之^{1), 2)}
(¹⁾ 大阪大学, ²⁾ (独) 医薬基盤研究所)
- S9-5 薬物性肝障害の臨床
藤村 昭夫
(自治医科大学)

シンポジウム 10

7月18日(水) 9:00~12:00 第3会場

- S10 重金属の毒性とその防御の分子メカニズム
座長: 佐藤 雅彦 (愛知学院大学)
姫野誠一郎 (徳島文理大学)

- S10-1 カドミウムとマンガンの毒性標的器官における金属輸送体の役割
○藤代 瞳, 姫野誠一郎
(徳島文理大学)
- S10-2 重金属によるメタロチオネイン遺伝子の転写制御
木村 朋紀
(摂南大学)
- S10-3 重金属毒性に対する防御応答システムを担う Keap1-Nrf2 系
新開 泰弘
(筑波大学)
- S10-4 核内受容体としての有機スズ化合物とその毒性
中西 剛
(岐阜薬科大学)
- S10-5 メチル水銀毒性と細胞内蛋白質トラフィッキング
黄 基旭
(東北大学)
- S10-6 血管内皮細胞に対するカドミウムの毒性発現機構
山本 千夏¹⁾, 鍛冶 利幸²⁾
(¹⁾ 北陸大学, ²⁾ 東京理科大学)

シンポジウム 11

7月18日(水) 14:45~16:45 第2会場

- S11 臨床副作用と非臨床毒性の相関 - 種差を乗り越えて -
座長: 山田 弘 ((独) 医薬基盤研究所)
永山 隆 (日本製薬工業協会)
- S11-1 臨床副作用と非臨床毒性の相関 - 公開資料の調査結果から -
○王鞍 孝子^{1), 2)}, 永山 隆¹⁾, 米田 保雄¹⁾,
服部 健一¹⁾, 荻野 大和¹⁾, 田牧 千裕¹⁾,
高島 吉治¹⁾, 安木 大策¹⁾, 橋場 雅道¹⁾,
久田 茂¹⁾, 中村 和市¹⁾
(¹⁾ 日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 基礎研究部会, ²⁾ 丸石製薬株)
- S11-2 構造活性相関による毒性予測
○田辺 和俊¹⁾, 鈴木 孝弘²⁾
(¹⁾ 産業技術総合研究所, ²⁾ 東洋大学)
- S11-3 医薬品安全性評価に用いる Mechanistic Tool Box の充実
山田 弘
(独) 医薬基盤研究所)

S11-4 種差の克服への代謝における試み
山添 康
(東北大学)

シンポジウム 12

7月18日(水) 14:45~16:45 第3会場

S12 In vitro 毒性試験法の探索毒性試験への展開
座長: 小島 肇 (国立医薬品食品衛生研究所)
井上 達 (独) 医薬品医療機器総合機構)

S12-1 In vitro 探索毒性試験の展望
小島 肇
(国立医薬品食品衛生研究所)

S12-2 毒性試験法開発における人工染色体 ベクター
の応用
○大林 徹也, 押村 光雄
(鳥取大学)

S12-3 ヒト iPS 細胞由来心筋とニューロンを用いた
非臨床試験法の開発
関野 祐子
(国立医薬品食品衛生研究所)

S12-4 免疫毒性
相場 節也
(東北大学)

S12-5 ヒト肝細胞スフェロイド培養法を用いた in
vitro 代謝・毒性評価
○太田 之弘^{1),6)}, 王鞍 孝子^{2),6)},
長井 大地^{3),6)}, 岩井 久和^{4),6)}, 片木 淳^{5),6)}
(¹⁾ 中外製薬(株), (²⁾ 丸石製薬(株), (³⁾ 日本化薬(株),
⁴⁾ (株)三和化学研究所, ⁵⁾ 小野薬品工業(株),
⁶⁾ 安全性評価研究会スフェロイド分科会)

シンポジウム 13

7月19日(木) 9:00~12:00 第2会場

S13 環境化学物質による毒性メカニズムの分子基盤
座長: 古武弥一郎 (広島大学)
熊谷 嘉人 (筑波大学)

S13-1 パーキンソン病関連神経毒性物質による
チューブリンのエビキチン化阻害とオート
ファジー
古武弥一郎
(広島大学)

S13-2 プロテインジスルフィドイソメラーゼ (PDI) へ
の環境化学物質の結合とその作用機序について
今岡 進
(関西学院大学)

S13-3 ガス状分子の神経細胞死に対する作用機構
上原 孝
(岡山大学)

S13-4 環境中親電子物質によるタンパク質の化学修
飾とそれに対する生体の応答戦略
熊谷 嘉人
(筑波大学)

S13-5 DNA アダクトーム - 開発と応用 -
松田 知成
(京都大学)

シンポジウム 14

7月19日(木) 9:00~11:45 第3会場

S14 創薬スクリーニングにおける毒性評価
座長: 神藤 敏正 (第一三共(株))
西田 信之 (武田薬品工業(株))

S14-1 毒性スクリーニングの過去, 現在, 未来
堀井 郁夫
(ファイザー(株), 昭和大学)

S14-2 創薬における肝障害評価と今後の展望
○西矢 剛淑, 藤本 和則, 森 和彦,
神藤 敏正, 矢本 敬, 三分一所厚司
(第一三共(株))

S14-3 創薬初期における安全性薬理評価の新たなパ
ラダイム
澤田 光平
(エーザイ(株))

S14-4 神経毒性スクリーニングの新展開
宮田 久嗣
(東京慈恵会医科大学)

シンポジウム 15

7月19日(木) 13:45~16:45 第1会場

S15 放射線被曝と毒性学における課題・・福島原
発問題を契機として
座長: 遠山 千春 (東京大学)
広瀬 明彦
(国立医薬品食品衛生研究所)

- S15-1 放射線リスクをどう評価し管理しているのか?
甲斐 倫明
(大分県立看護科学大学)
- S15-2 医療・臨床研究における放射線被ばく
井上登美夫
(横浜市立大学)
- S15-3 低線量放射線と化学発がん物質の複合曝露によるマウス T リンパ腫発生への影響
○柿沼志津子, 甘崎 佳子, 平野しのぶ,
澤井 知子, 西村まゆみ, 島田 義也
(放射線医学総合研究所)
- S15-4 現存被ばく状況での公衆衛生の課題
山口 一郎
(国立保健医療科学院)
- S15-5 リスク評価から見た放射線毒性学
菅野 純
(国立医薬品食品衛生研究所)

シンポジウム 16

7月19日(木) 13:30 ~ 16:30 第2会場

- S16 ファーマコビジランス (PV) シンポジウム
日本製薬医学会 (JAPhMed) 後援・安全性評価
研究会 / ファーマコビジランス分科会
(SEF/PV-WG) 企画
非臨床・臨床ジョイントディスカッションによる
ヒトでの副作用リスク最小化へのチャレンジ
-実践編
「非臨床 / トキシコロジストは、臨床最前線の
医学専門家等との連携により最先端の科学技
術に基づき副作用リスクをどのように読むか」
座長: 佐藤 淳子
(独)医薬品医療機器総合機構)
ステュワート ギリー
(JAPhMed, エーザイ(株))
熊谷 雄治
(北里大学)
菅井象一郎
(安全性評価研究会PV分科会, 日本たばこ産業(株))

パネリスト:

- 平間 敏靖
(グラクソ・スミスクライン(株))
築館 一男
(エーザイ(株))

- S16-1 Global Metabolomics Technology and Its
Application in Toxicology
- Clinical and Preclinical Case Studies
How to use metabolomics for patient stratification
(cisplatin treatment) and early preclinical
biomarker discovery (renal and liver toxicity)
Lining GUO
(Metabolon, Inc., USA)
- S16-2 臨床副作用の予測における非臨床からのアプ
プローチ: アセトアミノフェン誘発性肝臓障害
の評価法
- 副作用 (長期投与時の Late Onset DILI)
の発現リスク因子の解析; メタボローム解析
小林 章男
(日本たばこ産業(株))
- S16-3 医薬品候補化合物臨床第1相試験で肝逸脱酵
素活性値の上昇が認められた事例の臨床と非
臨床データ比較
千葉 修一
(中外製薬(株))
- S16-4 日本人を対象とした副作用に関するゲノム・
メタボローム解析
斎藤 嘉朗, 鹿庭なほ子, 杉山永見子,
黒瀬 光一, 前川 京子
(国立医薬品食品衛生研究所)
- S16-5 ファーマコビジランスにおけるゲノム薬理学
及びバイオマーカー関連情報の活用
鳥谷部貴祥
(独)医薬品医療機器総合機構)

ミニシンポジウム 1

7月19日(木) 10:00 ~ 12:00 第6会場

- MS1 就職希望の学生を対象とした安全性研究所等
の紹介
座長: 下村 和裕 (第一三共(株))
上野 光一 (千葉大学)
- MS1-1 医薬品開発における非臨床安全性研究の概要
岡井 佳子
(武田薬品工業(株))
- MS1-2 資生堂における化粧品安全性評価
有松 牧恵
(株資生堂)

MS1-3 企業における医療機器の安全性評価

田中 直子
(テルモ(株))

MS1-4 一般毒性試験

黒沢 亨
(Meiji Seika ファルマ(株))

MS1-5 生殖発生毒性試験

下村 和裕
(第一三共(株))

MS1-6 遺伝毒性試験法

小平 輝朋
(旭化成ファーマ(株))

MS1-7 医薬品開発と安全性薬理試験

葛西智恵子
(アステラス製薬(株))

ミニシンポジウム 2

7月19日(木) 13:30 ~ 16:30 第6会場

MS2 若手研究者セミナー

座長:中西 剛 (岐阜薬科大学)
國澤 純 (東京大学医科学研究所)

MS2-1 薬物性肝障害の発症機序の解明研究

○矢野 梓, 深見 達基, 中島 美紀,
横井 毅
(金沢大学)

MS2-2 食物アレルギーにおけるマスト細胞の関与とその制御

○網谷 岳朗^{1,2)}, 倉島 洋介¹⁾, 藤澤久美子^{1),3)},
國澤 純^{1,2)}, 清野 宏^{1),2),3)}
(¹⁾ 東京大学医科学研究所, ²⁾ 東京大学,
³⁾ 科学技術振興機構 (CREST))

MS2-3 神経ペプチド CGRP による皮膚免疫制御

○三上 統久, 深田宗一郎, 山元 弘,
辻川 和丈
(大阪大学)

MS2-4 化学物質の皮膚感作性評価におけるアプローチ

森本 隆史^{1),2)}
(¹⁾ 住友化学(株), ²⁾ 広島大学)

MS2-5 MPP+ 神経細胞毒性における一酸化窒素-活性酸素シグナル

○竹内くみこ^{1),4)}, 笠松 真吾¹⁾, 牧野恵里華¹⁾,
西田 基宏²⁾, 赤池 孝章³⁾, 居原 秀¹⁾
(¹⁾ 大阪府立大学, ²⁾ 九州大学, ³⁾ 熊本大学,
⁴⁾ 塩野義製薬(株))

MS2-6 メチル水銀によるタンパク質のS-水銀化とそれに伴う機能破綻

○神田 洋紀^{1),2)}, 外山 喬士^{1),3)}, 熊谷 嘉人¹⁾
(¹⁾ 筑波大学, ²⁾ 協和発酵キリン(株), ³⁾ 日本学術振興特別研究員)

サテライトシンポジウム

7月20日(金) 9:00 ~ 12:00 第6会場

ST 化学物質の安全性を in silico で評価する

座長:林 真
((公財) 食品農医薬品安全性評価センター)
山添 康 (東北大学)

ST-1 有害性評価支援システム開発プロジェクトの背景と概要

山田 隼
(元製品評価技術基盤機構化学物質管理センター)

ST-2 反復投与毒性試験データベースの開発

阿部 武丸
(元: (独) 製品評価技術基盤機構)

ST-3 毒性作用機序データベースの開発

山田 隆志
((独) 製品評価技術基盤機構化学物質管理センター)

ST-4 有害性評価支援システム (Hazard Evaluation Support System) における ADME DB および HESS DB の開発

山下 辰博
(富士通(株))

ST-5 基質の構造に基づく代謝予測

山添 康
(東北大学)

ST-6 カテゴリーアプローチによる反復投与毒性の評価

櫻谷 祐企
((独) 製品評価技術基盤機構化学物質管理センター)

ST-7 ベイジアンネットによる毒性評価システム ToxBay

○岡田 孝, 大森 紀人
(関西学院大学)

6. 一般演題

- 1) 主発表者（プレゼンター）は本学会会員に限ります（1名1演題）。現在非会員の方で発表を希望される方は、学会 HP 掲載の入会申込書にて、日本毒性学会事務局へ入会の手続きを行って下さい。
- 2) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演の発表時間は7分、討論4分の計11分を予定しています。発表方法は液晶プロジェクターのみです。

ポスター発表は、7月17日（火）・18日（水）・19日（木）の3日間、毎日貼替えてポスター展示を行います。

◆ポスター発表 質疑・応答（コアタイム）

7月17日（火）16：30～17：30

7月18日（水）16：00～17：00

7月19日（木）16：30～17：30

ポスターは縦118.9cm、横84.1cm以下のサイズで作成して下さい。

詳細については年会 HP にてご案内いたします。

3) 優秀研究発表賞

2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。応募者はポスター発表に加え、別会場で5分の口頭発表と3分の質疑応答を行っていただく予定です。発表データ(Power Point)は、年会当日受け付けいたします。受賞者の発表は学術年会最終日に行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

7. 参加登録および参加費

事前参加申込は、終了しました。当日の参加申込は2階総合受付で行います。

1) 当日参加登録費

◆参加登録区分には、次の2通りがございます。

- ・第39回日本毒性学会学術年会のみ参加する場合
- ・第6回アジア毒性学会学術集会（ASIATOX-VI）にも参加する場合

それぞれの参加費に含まれる詳細は右記に記載しております。同時期開催の第6回アジア毒性学会学術集会 ASIATOX-VIにも参加する方は、懇親会も含んだお得な料金になっておりますので、是非お申込み下さい。

1-1) 第39回日本毒性学会学術年会のみ参加する場合

（年会参加証、プログラム・講演要旨集を含む）

学会員	12,000円
非学会員	14,000円
学生会員	4,000円
懇親会費（一般）	10,000円
（学生）	5,000円

1-2) 第6回アジア毒性学会学術集会

（ASIATOX-VI）にも参加する場合

（年会・ASIATOX-VI参加証、年会・ASIATOX-VIプログラム・講演要旨集、懇親会費、ASIATOX-VI ウェルカムレセプションを含む）

学会員	32,000円
非学会員	34,000円
学生会員	13,000円

2) 参加証、プログラム・講演要旨集

事前参加登録をされた方には、7月初旬にご登録住所へ参加証（領収証付）・第39回日本毒性学会学術年会プログラム・講演要旨集を郵送いたします。異なる領収証が必要な場合は、年会当日、総合受付までお申し出ください。なお、第6回アジア毒性学会学術集会のプログラム要旨集は学会場にてお渡しいたします。

8. 懇親会

7月18日（水）に ASIATOX-VI との合同懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。当日、年会会場（仙台国際センター）よりシャトルバスを運行する予定です。詳細は年会 HP にてご案内いたします。

会 場：メトロポリタンホテル仙台

4階「グランドボールルーム」

（仙台駅直結）

時 間：18：00～20：00

9. シャトルバス

会期中、朝夕に仙台駅から年会会場（仙台国際センター）までシャトルバスを運行する予定です。詳細は年会 HP にてご案内いたします。

10. 年会事務局

〒 980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野
黄 基旭 (ふあん ぎうく)
TEL&FAX: 022-795-6872
E-mail: secretariat@jsot2012.com

11. 年会 HP

<http://www.jsot2012.com>

◆同時期開催のご案内◆

第 6 回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI)

日時: 2012 年 7 月 17 日 (火) ~ 20 日 (金)

会場: 仙台国際センター

会長: 永沼 章 (東北大学大学院薬学研究科)

学術集会 HP: <http://www.asiattox-vi.com>

※学会参加費などの特典がありますので, 是非
ご参加ください!

第6回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) のご案内 (第4報)

※第39回日本毒性学会学術年会と同時期開催いたします。

1. 日時

2012年7月17日(火)～20日(金)

2. 会場

仙台国際センター
〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
TEL: 022-265-2211 (代表)
URL: <http://www.sira.or.jp/icenter/>

3. 年会長

永沼 章 (東北大学大学院薬学研究科)
TEL: 022-795-6870

4. テーマ

『環境物質をはじめとする様々な化学物質, 医薬品,
金属や天然物のリスクと恩恵』

5. 会議使用言語

英語

6. 組織委員 (敬称略)

会長: 永沼 章 (東北大学)
事務局長: 熊谷 嘉人 (筑波大学)
財務委員: 中村 和市 (塩野義製薬株式会社)
西田 信之 (武田薬品工業株式会社)
総務委員: 黄 基旭 (東北大学)
新開 泰弘 (筑波大学)
高橋 勉 (東北大学)
広瀬 玲子 (筑波大学)

国際委員:

【日本】 Tetsuo SATOH (Chiba University)
【韓国】 Byung-Mu LEE (Sungkyunkwan University)
【中国】 Jun-Shi CHEN
(Chinese Center for Disease Control and Prevention)
【台湾】 Min-Liang KUO
(National Taiwan University)
Jou-Fang DENG
(Taipei Veterans General Hospital)
【タイ】 Songsak SRIANUJATA (Mahidol University)

国際プログラム委員:

【日本】 Ikuo HORII (Pfizer Inc.)
【韓国】 Young-Jin CHUN (Chung-Ang University)
【中国】 Shuang-Qing PENG
(Institute of Disease Control and Prevention AMMS)
【台湾】 Pinpin LIN
(National Health Research Institutes)
【タイ】 Malyn CHULASIRI (Mahidol University)

国内委員: 堀井 郁夫 (ファイザー株式会社)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

鍛冶 利幸 (東京理科大学)

三森 国敏 (東京農工大学)

務台 衛 (田辺三菱製薬株式会社)

中村 和市 (塩野義製薬株式会社)

西田 信之 (武田薬品工業株式会社)

野村 護 (株式会社イナリサーチ)

落合 敏秋 (日本エスエルシー株式会社)

大野 泰雄 (国立医薬品食品衛生研究所)

下村 和裕 (第一三共株式会社)

菅井象一郎 (日本たばこ産業株式会社)

杉本 哲朗 (中外製薬株式会社)

天間 恭介 (北里大学)

遠山 千春 (東京大学)

津田 修治 (岩手大学)

山田 久陽 (大正製薬株式会社)

山添 康 (東北大学)

吉田 武美 (薬剤師認定制度認証機構)

7. プログラム

1) 特別講演, 教育講演 (第39回日本毒性学会学術年会)

第39回日本毒性学会学術年会との合同プログラムとなります。詳細は年会プログラムをご参照下さい。

2) シンポジウム (発表順未定)

Symposium 1

18-Jul (Wed.) 9 : 00 ~ 12 : 00 Room 4

- AS1 Advances in clinical toxicology
Chair : Winai WANANUKUL
(Mahidol University, Thailand)
Jou-Fang DENG
(Taipei Veterans General Hospital, Taiwan)
- AS1-1 Advance in the management of acute human poisonings: new treatment modalities
Chen-Chang YANG^{1) .2)}
¹⁾ National Yang-Ming University, Taiwan,
²⁾ Taipei Veterans General Hospital, Taiwan)
- AS1-2 Complement inhibition alleviates paraquat-induced acute lung injury
Han Bin WANG
(Affiliated hospital of Academy of Military Medical Sciences, China)
- AS1-3 Management of insecticide poisoning
Hyung-Keun ROH
(Gachon University Hospital, Korea)
- AS1-4 How should we evaluate causality for adverse reactions during clinical trials?
Stewart GEARY
(Eisai Co., Ltd., Japan)
- AS1-5 Advance in antidotes management
Winai WANANUKUL
(Mahidol University, Thailand)
- AS1-6 How should we make the most of the toxicological data in the clinical fields?
Tomoko HASUNUMA
(Toho University, Japan)

Symposium 2

18-Jul (Wed.) 9 : 00 ~ 12 : 00 Room 5

- AS2 Drug abuse
Chair : Lin LU
(Peking University, China)
Hideyuki YAMADA
(Kyushu University, Japan)
- AS2-1 Adverse drug reactions & medication safety in clinical practice
Jeong-Hyun YOON
(Pusan National Univerisity, Korea)

- AS2-2 Emerging drugs of abuse in Taiwan, viewpoints from a clinical toxicologist
○ Wei-Jen TSAI, Jou-Fang DENG
(Taipei Veterans General Hospital, Taiwan)
- AS2-3 Current situation and characteristics on drug abuse in China
Zhimin LIU
(Peking University, China)
- AS2-4 Drug abuse - current status in Japan -
Takemi YOSHIDA
(Council on Pharmacists Credentials, Japan)

Symposium 3

18-Jul (Wed.) 13 : 30 ~ 16 : 30 Room 4

- AS3 Molecular toxicology: update
Chair : Young-Jin CHUN
(Chung-Ang University, Korea)
Keiko TAGUCHI
(Tohoku University, Japan)
- AS3-1 Toxicometabolomics and urinary biomarkers for nephrotoxicity
○ Kyu-Bong KIM¹⁾, So Young UM²⁾, Myeon Woo CHUNG²⁾, Seung Chul JUNG²⁾, Ji Seon OH²⁾, Seon Hwa KIM²⁾, Han Sung NA²⁾, Byung Mu LEE³⁾, Ki Hwan CHOI²⁾
¹⁾ Dankook University, Korea, ²⁾ Korea Food and Drug Administration, Korea, ³⁾ Sungkyunkwan University, Korea)
- AS3-2 Highlights in toxicology research in Taiwan
Min-Liang KUO
(National Taiwan University College of Medicine, Taiwan)
- AS3-3 Epigenetic dysregulation during chemical carcinogenesis
○ Yongmei XIAO¹⁾, Daochuan LI¹⁾, Bo ZHANG¹⁾, Qing WANG¹⁾, Xiaowen ZENG¹⁾, Ping YANG¹⁾, Huawei DUAN²⁾, Zhixiong ZHUANG^{1) .3)}, Yuxin ZHENG²⁾, Wen CHEN¹⁾
¹⁾ Sun Yat-sen University, China, ²⁾ National Institute for Occupational Health and Poison Control, Chinese Center for Disease Control and Prevention, China, ³⁾ Shenzhen Center for Disease Control and Prevention, China)

AS3-4 Keap1-Nrf2 system for maintenance of redox homeostasis

○ Keiko TAGUCHI, Nanako FUJIKAWA,
Hozumi MOTOHASHI, Masayuki YAMAMOTO
(Tohoku University, Japan)

Symposium 4

18-Jul (Wed.) 13 : 30 ~ 16 : 30 Room 5

AS4 Natural products as chemopreventive agents

Chair : Tsung-Yun LIU
(National Yang-Ming University, Taiwan)
Daigo SUMI
(Tokushima Bunri University, Japan)

AS4-1 Cancer chemopreventive effects of diallyl trisulfide derived from garlic

Hye-Kyung NA
(Sungshin Women's University, Korea)

AS4-2 The anti-cancer effects of pterostilbene in sensitive and nicotine-induced chemoresistant bladder cancer cells

Rong-Jane CHEN, ○ Ying-Jan WANG
(National Cheng Kung University, Taiwan)

AS4-3 Induction of Nrf2-regulated enzymes by falcariindiol isolated from notopterygium incisum extract leads to protection against oxidative and electrophilic stress

Tomokazu OHNUMA
(Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, Japan)

AS4-4 Toxicological aspects of aconite alkaloids in decoction by using a microwave oven

○ Fumio IKEGAMI, Yan WANG, Megumi SUMINO, Atsushi CHINO
(Chiba University, Japan)

Symposium 5 : Pfizer Satellite Symposium

19-Jul (Thu.) 9 : 00 ~ 12 : 00 Room 4

AS5 Regulatory sciences in Asia: current and future aspect of regulatory sciences in each country

Chair : Kazuichi NAKAMURA
(Shionogi & Co., Ltd., Japan)
Nasir KHAN
(Pfizer Inc., USA)

AS5-1 Keynote lecture: Regulatory science and toxicology

Takemi YOSHIDA
(Council on Pharmacists Credentials, Japan)

AS5-2 Regulatory science in Asia: current and future aspects of regulatory science in Korea

Soon Young HAN
(Korea Food and Drug Administration, Korea)

AS5-3 Progresses on regulatory science and risk assessment in China

Lijie FU
(Shin Nippon Biomedical Laboratories, Ltd., China)

AS5-4 Current and future aspects of regulatory sciences in Taiwan

Jaw-Jou KANG
(National Taiwan University, Taiwan)

AS5-5 Regulatory sciences in Asia: current and future aspect of regulatory sciences in Thailand

Songsak SRIANUJATA
(Mahidol University, Thailand)

AS5-6 Regulatory science of nonclinical drug development in Japan

○ Shunji NOMURA¹⁾, Ikuo HORII²⁾
(¹⁾ Pfizer Japan Inc., Japan, ²⁾ Pfizer Inc., USA)

Symposium 6

19-Jul (Thu.) 9 : 00 ~ 12 : 00 Room 5

AS6 Nanotoxicology

Chair : Myung-Haing CHO
(Seoul National University, Korea)
Jun KANNO
(National Institute of Health Sciences,
Japan)

AS6-1 Nanomaterial toxicity, its chronic aspects.

Jun KANNO
(National Institute of Health Sciences, Japan)

AS6-2 Some biological effects of carbon nanotubes (cnts) in vivo and in vitro

○ Guang JIA¹, Hai Fang WANG², Yuan Fang LIU¹
(¹ Peking University, China, ² Shanghai University, China)

AS6-3 Comparing the toxic mechanism of synthesized zinc oxide nanomaterials by physico-chemical characterization and reactive oxygen species properties

○ Myung-Haing CHO, Hu-Lin JIANG, Kyeong-Nam YU, Seung-Hee CHANG, Seong-Ho HONG, Ah Young LEE, Somin LEE, Sang-Hwa KIM
(Seoul National University, Korea)

AS6-4 What we learned from toxicological studies for cadmium-based quantum dots in mice

Pinpin LIN
(National Health Research Institutes, Taiwan)

Symposium 7

19-Jul (Thu.) 13 : 30 ~ 15 : 30 Room 4

AS7 Oxidative stress: risk and benefit

Chair : Shusuke KUGE
(Tohoku Pharmaceutical University,
Japan)
Toshiyuki KAJI
(Tokyo University of Science, Japan)

AS7-1 Dose-dependant regulation of ROS on cell proliferation, apoptosis and necrosis

○ Chunxu HAI^{1, 2}, Rui LIU^{1, 2}, Xin WANG^{1, 2}, Xujun QIN^{1, 2}, Wenli LI^{1, 2}, Xiaodi ZHANG^{1, 2}, Hongli CHEN^{1, 2}, Hua BAI^{1, 2}, Wei ZHANG^{1, 2}, Jiangzheng LIU^{1, 2}
(¹ The Fourth Military Medical University, China, ² Shaanxi Key Laboratory of Free Radical Medicine, China)

AS7-2 Pathological role of Pin1 in the neointima formation: reactive oxygen species production through Nrf2 down-regulation

Keon Wook KANG
(Seoul National University, Korea)

AS7-3 Oxidative stress and mercury-induced pancreatic β -cell injury

Ya-Wen CHEN¹, Chun-Fa HUANG¹,
○ Shing-Hwa LIU²
(¹ China Medical University, Taiwan,
² National Taiwan University, Taiwan)

AS7-4 Peroxiredoxin and redox signaling

○ Shusuke KUGE, Hayato IROKAWA, Kenta IWAI, Ayako OGASAWARA, Takumi OHDATE, Toshihiko WATANABE
(Tohoku Pharmaceutical University, Japan)

Symposium 8

19-Jul (Thu.) 13 : 30 ~ 16 : 30 Room 5

AS8 Toxicological aspects in consumer products

Chair : Malyn CHULASIRI
(Mahidol University, Thailand)
Seiichiro HIMENO
(Tokushima Bunri University, Japan)

AS8-1 Risk assessment of volatile organic compounds (VOCs) and endocrine disrupting chemicals (EDCs) in consumer products

Byung-Mu LEE
(Sungkyunkwan University, Korea)

AS8-2 Toxicological concern in cosmetic products

Malyn CHULASIRI
(Mahidol University, Thailand)

- AS8-3 Health effect of nonylphenols exposure on pregnant women and neonate
 ○ Mei-Lien CHEN¹⁾, Chia-Huang CHANG¹⁾, I-Fang MAO²⁾, Yen-An TSAI¹⁾, Kai-Wei LIAO¹⁾, Ming-Song TSAI³⁾,⁴⁾
 (1) National Yang-Ming University, Taiwan, 2) Chung Shan Medical University, Taiwan, 3) Cathay General Hospital, Taiwan, 4) Fu Jen Catholic University, Taiwan)
- AS8-4 Food chemical safety risk management options on how to deal with the results from new risk-benefit assessment methodologies
 Yongning WU¹⁾,²⁾
 (1) China National Center for Food Safety Risk Assessment (CFSA), China, 2) Chinese Center for Disease Control and Prevention, China)
- AS8-5 Immunological effects of phthalates and other chemicals in consumer products
 ○ Eiko KOIKE¹⁾, Rie YANAGISAWA¹⁾, Hirohisa TAKANO²⁾
 (1) National Institute for Environmental Studies, Japan, 2) Kyoto University, Japan)

Symposium 9

20-Jul (Fri.) 9 : 00 ~ 12 : 00 Room 4

- AS9 Mutagenesis and carcinogenesis of drugs, metals and industrial chemicals
 Chair : Pinpin LIN
 (National Health Research Institutes, Taiwan)
 Masahiko SATOH
 (Aichi Gakuin University, Japan)
- AS9-1 A new toxic biomarker of anticancer agent cisplatin
 ○ Sang Geon KIM¹⁾, Chan Gyu LEE¹⁾, Il Je CHO²⁾, Dal Woong CHOI³⁾
 (1) Seoul National University, Korea, 2) Daegu Haany University, Korea, 3) Korea University, Korea)

- AS9-2 Epigenetic alterations in human urothelial cells under sustained arsenic exposure in culture
 Hsiu-Hua WANG, ○ Te-Chang LEE
 (Academia Sinica, Taiwan)
- AS9-3 The roles of microRNAs involved in chemical carcinogenesis
 ○ Yiguo JIANG, Yan WU, Yao ZHAO, Linhua LIU
 (Guangzhou Medical University, China)
- AS9-4 Animal model for arsenic carcinogenesis
 ○ Hideki WANIBUCHI, Min WEI, Anna KAKEHASHI, Shotaro YAMANO
 (Osaka City University Medical School, Japan)

Symposium 10

20-Jul (Fri.) 9 : 00 ~ 12 : 00 Room 5

- AS10 Radiotoxicology: risk assessment
 Chair : Ping-Kun ZHOU
 (Beijing Institute of Radiation Medicine, China)
 Shino HOMMA-TAKEDA
 (National Institute of Radiological Sciences, Japan)
- AS10-1 Genes and proteins regarding radiation protection and sensitization
 In Gyu KIM
 (Korea Atomic Energy Research Institute, Korea)
- AS10-2 Health impacts of external protracted low dose-rate ionizing radiation exposure from the environment
 Peter Wushou CHANG
 (Taipei Medical University, Taiwan)
- AS10-3 Radiological genotoxicity: DNA damage signaling and biomarkers for the health risk assessment
 ○ Ping-kun ZHOU, Qin-Zhi XU, Ying CHEN, Xiao-Dan LIU, Zhi-Dong WANG, Xue-Qing ZHANG
 (Beijing Institute of Radiation Medicine, China)

AS10-4 Site-selective accumulation of uranium in the downstream of the proximal tubules and renal toxicity

○ Shino HOMMA-TAKEDA¹⁾, Toshiaki KOKUBO¹⁾, Teruaki KONISHI¹⁾, Noriyoshi SUYA¹⁾, Masakazu OIKAWA¹⁾, Kyoko SUZUKI²⁾, Yasuko TERADA³⁾, Tatsuo HAYAO¹⁾, Tatsuya INOUE⁴⁾, Mayumi NISHIMURA¹⁾, Yoshiya SHIMADA¹⁾

¹⁾ National Institute of Radiological Sciences, Japan, ²⁾ University of Tokyo, Japan, ³⁾ Japan Synchrotron Radiation Research Institute, Japan ⁴⁾ Juntendo University, Japan

AS10-5 Advances in radiobiological research using microbeam irradiation techniques

○ Teruaki KONISHI¹⁾, Masakazu OIKAWA¹⁾, Noriyoshi SUYA¹⁾, Shino HOMMA-TAKEDA¹⁾, Viann W.Y. CHOI²⁾, Peter K.N. YU²⁾, Jun WANG³⁾, Alisa KOBAYASHI¹⁾, Naoko SHIOMI¹⁾, Kumiko KODAMA¹⁾, Yukio UCHIHORI¹⁾, Yoshiyuki SHIRAKAWA¹⁾

¹⁾ National Institute of Radiological Sciences, Japan, ²⁾ City University of Hong Kong, Hong Kong, ³⁾ Chinese Academy of Sciences, China

3) 一般演題 (Poster session)

8. 一般演題

1) 一般演題はポスターのみです。

7月20日(金)

8:30 ~ 9:00 貼付

9:00 ~ 11:00 展示

11:00 ~ 12:00 質疑・応答 (コアタイム)

ポスターは縦 118.9cm, 横 84.1cm 以下のサイズで作成して下さい。

詳細については学術集会 HP にてご案内いたします。

2) Young Investigator's Award (若手優秀研究賞)
2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。受賞者の発表は懇親会にて行います。受賞者(最大6名)には賞状と賞金5万円を授与します。

3) Poster Award (ポスター賞)

2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。受賞者には賞状を授与します。

9. 参加登録および参加費

事前参加は終了しました。当日の参加申込は2階総合受付で行います。

1) 当日参加登録費

一般 32,000円

学生 13,000円

同伴者 13,000円

(第39回日本毒性学会学術年会・ASIATOX-VI参加証, 第39回日本毒性学会学術年会・ASIATOX-VIプログラム・講演要旨集, 懇親会費, ASIATOX-VI ウェルカムレセプションを含む)

2) 当日のお支払い方法

1. 現金(日本円のみ)

2. クレジットカード(予定)

3) 参加証

参加証, プログラム・講演要旨集は当日総合受付でお渡しします。

10. 懇親会

7月18日(水)に懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。なお、懇親会は第39回日本毒性学会学術年会と合同で開催いたします。

当日、会場(仙台国際センター)よりシャトルバスを運行する予定です。詳細は学術集会 HP にてご案内いたします。

会場: メトロポリタンホテル仙台

4階「グランドボールルーム」(仙台駅直結)

時間: 18:00 ~ 20:00

参加費: 参加費に含まれます。

11. シャトルバス

会期中、朝夕に仙台駅⇄会場(仙台国際センター)間シャトルバスを運行する予定です。詳細は学術集会 HP にてご案内いたします。

12. 学術集会事務局

〒 305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学医学医療系 環境医学分野
熊谷 嘉人, 新開 泰弘, 広瀬 玲子
TEL : 029-853-3133 FAX : 029-853-3259
E-mail : secretariat@asiatox-vi.com

13. 学術集会 HP

<http://www.asiatox-vi.com>

その他のお知らせ

**第6回応用トキシコロジー リカレント
講座開催案内 (第1報)**

本講座は産業界、規制当局、アカデミアにおいて安全性研究にたずさわる研究者を対象にして、創薬から申請までの医薬品安全性評価の実際について最新の研究から実務に関する話題まで、幅広く勉強する場を提供することを目的としております。

6回目の開催となります本年は、平成24年9月6日と7日の2日間、大阪国際会議場にて開催いたします。多数ご参加いただけますようご案内申し上げます。

尚、本講座は日本毒性学会認定トキシコロジスト制度の認定講習会となっております。

期 日 2012年9月6日(木)～7日(金)2日間
場 所 大阪国際会議場
〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51
<http://www.gco.co.jp/index.php>

主 催 大阪市立大学大学院 医学研究科
都市環境病理学 教授 鰐淵 英機
協 賛 日本毒性学会
後 援 日本製薬工業協会

プログラム予定

9月6日(木)
10:00 - 10:05 開講挨拶
10:05 - 11:00 gpt δラットを用いた遺伝毒性・発がん性の包括的リスク評価モデルの確立
(大阪市立大学 鰐淵英機)
11:00 - 12:00 遺伝子と環境：遺伝毒性の基礎
(基盤研 能美健彦)
12:00 - 13:00 昼食
13:00 - 15:15 医薬品の遺伝毒性評価法における課題
(国立衛研 本間正充)
- パネルディスカッション
(国立衛研 本間正充, 大阪市立大学 鰐淵英機, 基盤研 能美健彦, アステラス製薬 若田明裕, あすか製薬 久田茂)
15:30 - 17:00 安全性評価のためのバイオマーカーの調査研究
(国立衛研 大野泰雄, 久光製薬 高橋光一, 日本たばこ 小林章男)
17:00 - 19:30 意見交換会 (リーガロイヤルホテル)

9月7日(金)
10:00 - 11:00 眼毒性と眼検査
(アボット 佐々木正治)
11:00 - 12:00 iPS細胞の医薬品安全性評価への応用:
(阪大, 基盤研 水口裕之)
12:00 - 13:00 昼食
13:00 - 14:00 環境毒性 (安研協)
14:00 - 16:00 医薬品の承認申請と安全性評価:
事例研究
座長: 小野寺博志 (総合機構), 佐神文郎 (エーザイ)

参加費 ¥30,000 (資料代, 意見交換会参加費を含む)

申込み方法

1. お名前, 2. フリガナ, 3. ご所属, 4. E-mail アドレスを, e-mail または Fax で下記までお申込みください。
追って e-mail にて参加費振り込み方法をお知らせします。振り込み確認をもって参加登録とさせていただきます。なお, 一度振り込んだ参加費はお返しできませんので, その場合は代理の参加をお願いします。

申し込み・問い合わせ先

大阪市立大学大学院 医学研究科
都市環境病理学 教授 鰐淵 英機
E-mail: recurrent2012@med.osaka-cu.ac.jp
Fax: 06-6646-3093

**第19回日本免疫毒性学会学術大会
(JSIT2012)**

**第61回日本産業衛生学会アレルギー・
免疫毒性研究会**

合同開催

日本免疫毒性学会の第19回学術大会を下記の要領で開催いたしますので, ご案内申し上げます。

期 日 平成24年(2012年)9月15日(土)～16日(日)
会 場 東京慈恵会医科大学 大学1号館講堂
東京都港区西新橋3-25-8
(交通: JR 新橋駅徒歩12分, 地下鉄都営三田線御成門駅徒歩3分)
テーマ 免疫毒性疾患の新しい様相

内 容**特別講演 1 :**

「Overview and Application of the WHO/IPCS Harmonized Guidance for Immunotoxicity Risk Assessment for Chemicals」

Henk van Loveren

(Professor of Immunotoxicology Laboratory for Health Protection Research, National Institute of Public Health and the Environment)

特別講演 2 :

「免疫毒性研究の温故知新一免疫毒性学会の発足経過と 20 周年への提言」

大沢 基保 (食品薬品安全センター 秦野研究所)

教育講演 1 :

「AIM (Apoptosis Inhibitor of Macrophage) がひも解く生活習慣病としての自己免疫疾患」

宮崎 徹

(東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター 分子病態医科学)

教育講演 2 :

「疲労の分子機構と免疫毒性との関係」

近藤 一博 (東京慈恵会医科大学ウイルス学講座)

シンポジウム :

「免疫毒性学研究の進歩」

坂部 貢 (東海大医学部基礎医学系生体構造機能学領域)

石渡 賢治 (東京慈恵会医科大学熱帯医学講座)

西村 泰光 (川崎医科大学衛生学教室)

試験法ワークショップ: 「In vitro immunotoxicology」

一般演題 (口演・ポスター)

* 年会において優秀な一般演題を発表した会員に対し、「年会賞」並びに「学生・若手優秀発表賞 (28 歳以下)」を贈呈します。

一般演題発表形式 PC プロジェクターによる口頭発表とポスター発表

演題募集期間 平成 24 年 4 月 16 日 (月) ~ 6 月 25 日 (月) (予定)

年会長 柳澤 裕之 東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座

事務局

宮越 雄一, 小岩井 利一

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座内

第 19 回日本免疫毒性学会事務局

TEL : 03-3433-1111 (内線 2266)

FAX : 03-5472-7526

e-mail : jsit19@jikei.ac.jp

学術大会 HP: <http://jsit19.umin.ne.jp>

住友化学株式会社 生物環境科学研究所 安全性評価研究職 募集要項

生物環境科学研究所では現在、安全性評価研究者を募集しています。

職 種	安全性評価研究職
仕事内容	農薬，一般化学物質の安全性評価研究，新規安全性評価技術開発
応募資格・要件	理系学部卒以上，原則として3年以上の安全性評価研究あるいはGLP毒性試験の実務経験を有する者（トキシコロジスト，毒性病理学専門家，生殖発生毒性専門家などの資格を有することが望ましい）
雇用形態	正社員
給 与	当社規定により優遇
待遇・福利厚生	昇給年1回，賞与年2回（原則として6・12月）、各社会保険完備、退職金、年金制度、持株会、交通費全支給，寮・社宅は当社規定にもとづき貸与，保養所，スポーツ施設あり
休日・休暇	週休2日制（年間休日124日），有給休暇，結婚休暇，忌引休暇等
勤務時間	フレックスタイム制（コアタイムなし），1日の標準労働時間7時間50分
勤 務 地	住友化学株式会社 生物環境科学研究所（大阪市此花区）
応募方法	履歴書，職務経歴書を郵送またはe-mailにて下記担当者まで送付ください。
応 募 先	〒554-8558 大阪市此花区春日出中3-1-98 住友化学株式会社 大阪工場 総務部（人事）採用担当S係 宛て tel：06-6466-5043 / fax：06-6466-5463 e-mail：kankei-saiyou@ya.sumitomo-chem.co.jp ※秘密厳守、応募書類不返却 ※個人情報を選考目的以外に使用いたしません。
募集締め切り	随時選考を行い，定員に達し次第締め切ります。

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性とその発現機構, 生体応答, 安全性評価, 分析法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicogenomics/proteomics Report: 刷り上がり3頁以内。毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群(または蛋白質群)に関するデータ(DNAアレイ分析の結果など)や毒性発現に影響を与える遺伝子(または蛋白質)の同定などが該当する。DNAアレイ分析結果などは1つの物質について1論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は1つの遺伝子について1論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果(ネガティブデータでも可)なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けないが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (5) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4判に上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文

字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。

- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行しない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, Å, µg, mg, g, kg, µl, ml, l, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/l, mg/ml, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C.
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith et al., 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができ、Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 薬物中毒 C8 薬物依存性 C9 細胞毒性 C10 酸化ストレス C11 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 オミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」（1964年発行、2002年改訂：<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>）の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/genomeshishin/）に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした

論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 投稿原稿の送付

原稿はオンライン投稿システム（<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci-ed/>）から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーシート（日本語可）を添付することができる。

7. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

8. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

9. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^c （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Report ^b	16,000	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：Toxicogenomics/proteomics Report。 ^c：図等も含む。

入 会 案 内

1. 「日本毒性学会会則」を熟読の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.gr.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
入会にあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は、評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。評議員については「評議員リスト」(https://toxicol.org/users/councilor_list)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
 2. 入会受付後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
 3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
 4. 本会の年度は1月1日から12月31日です。
 5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年の機関紙No.1からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
 6. 年会費および会員の種別は次の通りです。
一般会員 7,000円
学生会員 3,000円
- * 本年度入会希望の方は、12月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「登録情報確認・変更ページへ」から手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「退会申請ページへ」より手続きを行って下さい。

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

平成 9 年 7 月 24 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改正
平成 19 年 1 月 16 日改正
平成 21 年 7 月 5 日改正
平成 23 年 1 月 14 日改正
平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は化学物質の毒性試験に関する基準（GLP）の施行に伴う安全性試験の信頼性確保の重要性に鑑みて、わが国の安全性試験の信頼性向上と毒性学の進歩に寄与するため、JSOT 認定トキシコロジストの認定制度を設けて、質の高い専門家を認定する。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会（以下試験委員会という）を設置する。試験委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は試験委員会が行い、認定は理事会が行う。
- 書類審査の基準は次の通りとする。
 - 出願時に3年以上継続してJSOTの会員であること。
 - 出願時に6年制大学卒業後5年以上、4年制大学卒業後7年以上、短期大学卒業後10年以上、高等学校卒業後12年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に

計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等については事務局に事前に問い合わせること。

- 別表の受験資格評点基準に従って総合点が80点以上に達していること。
- 上記のうち、基準に満たない要件があるものについても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。
- 認定試験は原則として年1回実施し、筆記試験とする。
- 受験料は3万円とする。
- 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は2万円とする。
- JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後5年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. その他

この規約の変更は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学会	10 / 回	10 (5) / 回
	JSOT 認定学会 ³⁾	5 / 回	
	JSOT 認定講習会 ⁴⁾	5 / 回	
JSOT 主催講習会	基礎教育講習会 (1998 年以降) ⁵⁾	40 / 回	
	生涯教育講習会	5 / 回	

- 発表におけるかっこ内数字は筆頭者でない共同発表の点数を示す。
- レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛 (後援は除く) 学会
- 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 1997 年以前の参加は 10 / 回

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日制定
 平成 15 年 7 月 19 日改正
 平成 19 年 1 月 16 日改正
 平成 21 年 7 月 5 日改正
 平成 23 年 1 月 14 日改正
 平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規定に基づき制定されたものである。
2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時にも JSOT 会員であること。
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に別に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した 100 題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80 題以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては一回を限度に再試験を行い、その結果正答が 80 題以上に達した場合には合格とする。
4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員会委員長を経て認定試験小委員会に審査を委嘱する。
5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を教育委員会委員長を経て理事長に答申する。
6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料（当分の間 2 万円）を学会に納入する。
8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
10. 細則の変更は認定試験小委員会の議をへて、理事会の承認を得る必要がある。

付則：平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 参加 / 発表 JSOT 認定学会 ¹⁾ 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 公認講習会 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

- 1) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会
- 2) JSOT 基礎教育講習会・生涯教育講習会, 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 3) レフリー制度が整っている学術誌に限る

2012年6月1日 印刷

2012年6月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 永沼 章

発行所 日本毒性学会

編集部 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野内
TEL (022) 795-6870 FAX (022) 795-6869
E-mail : jts-ed@jtoxsci.org

学会事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
財団法人 国際医学情報センター内
日本毒性学会事務局
TEL (03) 5361-7075 FAX (03) 5361-7091
E-mail : jsot@imic.or.jp

振替 00150-9-426831

ホームページ <http://www.jsot.gr.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161